

科目名 日常生活援助技術実習 時間割表記名 日常生活援助技術実習	配当時期 1年次 12月 単位数 1単位 時間数 45時間(8日間)	講義担当者 佐々木 主一
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 看護の対象である人間を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤となる能力を習得できる。 【実習目標】 1. 患者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2. 患者の状態に応じた日常生活援助の必要性を理解できる。 3. 患者の個性に合わせた援助計画を立案することができる。 4. 立案した援助計画に基づいて、安全・安楽に実施できる。 5. 患者に応じたコミュニケーション技術を実践することができる。 6. 自己の看護について考えを深めることができる。 7. 保健・医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解できる DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を提供できる DP3. 一人ひとりの個性(多様な価値観)や人権を倫理観に基づいて看護を実践できる DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる DP5. 自己を理解し、他社を尊重したうえで、人間関係を構築することができる		
実習の流れ 本実習では、患者の状態をアセスメントし、患者に必要な看護を導きだし、安全・安楽に日常生活援助を実践する。実習 1 日目から一人の患者を受け持ち、患者とのコミュニケーションや観察、カルテより患者の全体像を把握し、患者の個性に応じた援助を安全・安楽に実施するための計画を立案する。立案した援助計画に沿って指導者と共に援助を行い、実施した援助の振り返りや援助計画の修正につなげていくことを理解する。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 他 既習のテキストを活用する		